

「私はソーシャルワーカー」

医療法人社団 ちくま会 メディカルガーデン新浦安
佐々木 勝利

私は現在、新浦安にある医療法人社団 ちくま会 メディカルガーデン新浦安（無床の内科・外科外来を併設）総合健診センターに勤務しております。

このたび、原稿依頼のお手紙を拝見した時、正直、私自身「私はソーシャルワーカー」の題目の後に“クエスチョンマーク”が付いているのが現状だな、と思いました。

現在の職種は、臨床検査技師と社会福祉士のダブルライセンスで勤務しておりますが、実際のところは、そのほとんどが臨床検査技師としての業務に追われている毎日だからです。

私が、ソーシャルワーカーになりたいと思ったきっかけは、今から30年以上前の大学進学の際になります。当時、ソーシャルワークという言葉自体も市民権をもっていないような時期で、友達に、「何の勉強をしているの？」と聞かれても、ソーシャルワークとは何か、といった話からしなければならぬような状態でした。

もともと、児童心理・障がい者福祉・老人福祉等のあらゆる分野に関心を持って大学時代を過ごしていたので、3年次にはそのすべてが叶いそうなMSWの勉強に夢中になりました。休みを使っては、各病院の医療相談室にお邪魔し、当時は個人情報の方が今より規制が厳しくなかったこともあって、面接の同席やグループワークへの参加など、さまざまな体験をすることが出来ました。

卒業論文も約1年間、通わせていただき「人工透析患者に対応する医療福祉の課題」という題をつけ、人工透析を受けている方、お一人ずつ、生活の実態調査をアンケート形式の書面や聞き取りで現状を把握し、グラフ化を多様化して課題の「見える化」をしたことを思い出します。

就職活動の時期になり、MSWとしての就職を考えていましたが、当時は求人もなく、日本経済が上向きに上昇し始めてきたこともあり、一般民間企業への就職に進路変更しました。

将来、総合生活文化企業を目指して多角化を推進する、という社長の言葉もあり、入社を決意し、いつか福祉や医療の活動が出来ることを夢見ていました。配属は、人事部採用担当。何百人もの学生と面接したり、セミナーで会社の夢や将来の指針を語ったり、当時私が聞いていた未来ビジョンの話や夢中で語り、優秀な学生と出会うことができました。

ちょうど、入社して2年後位でやっと一人前に仕事も出来るようになった時期に、体調の変化を覚え、我慢できずに会社を休んで病院へ行った結果、総合病院への紹介状を渡され、更なる精密検査を行いました。診断は、慢性腎不全でした。人工透析の導入は時間の問題と宣告されたとき、私は、自分の書いた卒業論文を思い出し、勉強していた病気に自分が患ってしまうという結果になりました。

それからは、食事の制限管理、運動、睡眠時間など様々な制約の中で規則正しい生活になるわけですが、会社の社長・上司・同僚の理解もあり、退職せずに在籍することができ、退院後も人事部で勤務することができました。

そして、あと何年、仕事ができるのか不安が募り募った結果、11年勤務していた会社を辞め、転職をしようと考え始めたのです。とはいうものの、身体は内部障がい者1級ですから、そう簡単に転職できる環境ではありませんでした。年齢も33歳でしたので、転身するなら今しかないと思い、お金・学力・社会人編入試験科目など、あらゆる情報を集め、社会人編入できる医療関連の国家試験が取れる学

校を探しまわりました。医学部・看護学部・臨床検査・診療放射線・臨床工学士などです。たまたま、入学条件が一致した学校を探すことが出来、臨床検査技師養成所に入学することになったのです。

学生時代は、社会福祉士という国家資格も法律もありませんでしたので、ソーシャルワーカーとしての大学での勉強と併せ、直接医療の臨床に出向くことで、医療と福祉の架け橋になり、自分のような人工透析予備軍の方々を少しでも早期発見して、その導入を減らしたいという意欲もありました。

臨床検査技師養成所での勉強の甲斐もあって、3年後には国家試験に合格でき、また養成所在学中には、日本生体工学会の第2種 ME（メディカル エンジニア）技術者の資格も取得することが出来ました。卒業後は、ご縁があって、二次救急の病院に就職し、生理検査と採血室、手術室、中央材料室などを兼務し、その間に特定化学物質等取扱作業主任者の資格も取得し、医療器材のエチレンオキサイドガス滅菌も出来るようになりました。

この病院をやめてからも、やはりご縁があって、現在の健診センターの前身の仮設の診療所に勤務が決まりましたが、たまたま、大学時代の仲間との出会いも重なり、社会福祉学部に卒業したのだから、社会福祉士免許は絶対に取得しようと決意し、通信制の学校へ進学、卒業と同時に国家試験にも合格することができました。

今、勤務している病院は、地域に根差した医療機関を目指しており、また地域連携にも関心をもった院長の元に各専門の科のスタッフが集まっております。健診センターが開設して、まだ1年半。これから、臨床検査技師としての業務はもちろんのこと、地元根差した医療機関となるべく、スタッフ一同がチームとなって、患者様ととりまくご家族様、他の病院や施設、行政、各種団体などとの連携をより一層密なものにして、私の今後のソーシャルワーカーとしての自分への課題としたいと思っております。

ソーシャルワーカーとして、実際の医療現場・臨床を知っていることは、自分の強みにもなると考えています。直接、医療に携われること、そしてソーシャルワークを学んできたこと、社会福祉士を取得したこと、自分が今までやってきたことが、どこかでひとつの共通点に到達し、ひとつのケースに対しても、複眼的に考えられるようなソーシャルワーカーになれるよう、日々精進していきたいと考えております。

あまり、まとまりのないような自叙伝のようなものになってしまいましたが、ソーシャルワーカーの“ニュータイプ”を自分で創造していけるよう頑張りたい、そんな2014年になれるよう努力していきます。

諸先輩方におかれましても、変なソーシャルワーカーが出現してきた、と思わずに、機会がありましたら、ぜひとも皆様にお会いして、名刺交換だけに終わらず、少しでも語り合うことが出来たら幸いです。

以上